

渋谷どこでも運動場プロジェクト（一般社団法人TOKYO PLAY）

～どこでも、誰でも、身近な場所で身体を動かしながら交流できるまちづくり～

活動類型⑨子供向けの運動・スポーツ時間の拡大



事例

取組概要

渋谷区の委託事業として、一般社団法人TOKYO PLAYが「渋谷どこでも運動場プロジェクト」を企画・運営。渋谷区全体を「15km²の運動場」と捉え、区内各地の道路や緑道、公開空地、公共施設の広場など公共空間を活用した、住民やNPO、企業等の主体による「思わずからだを動かしたくなる」イベントの開催を支援している。

実施体制、運営状況等

渋谷区教育委員会スポーツ振興課の事業を受託。実施希望組織の発掘から実施までの各種調整や、公共空間の使用申請、イベント当日の内容検討などを支援。事業の周知のためにTOKYO PLAYが主催する場合もある。

町会、市民活動団体、母親グループ、スポーツサークル、企業等が主催や共催となり、2019年度は渋谷区内全11地区で16回開催（計画は23回。新型コロナウイルス拡大に伴い5回、その他雨天で2回中止）。

運営費用：約550万円。（渋谷どこでも運動場プロジェクト/2020年度）

運営資源：スタッフ2名で事業推進。各イベントは主催者等も含めて3～8名程度で運営。

実施期間：2018年度～（初年度よりTOKYO PLAYが受託）

取組の狙いとポイント

スポーツ実施の現状

- 子どもが取り組むスポーツは、草スポーツや遊びといった子どもたちの自由裁量を前提としたものよりも、大人の指導が伴うプログラムや習い事、競技スポーツに重点が置かれるようになっている。そのため、習い事に行っている子どもとそうでない子どもとで、運動習慣の二極化が進んでいる。
- 大人に関しても、スポーツに取り組むために専用の用具を用意したり、競技場、体育館、ジムなどの専用の施設へ足を運ぶことに一定のハードルがあり、ウォーキングやランニング以外で気軽に身体を動かせる機会はあまり多くない。

人々に身近な公共空間を活用し、大人も子どもも分け隔てなく、気軽に遊びながら体を動かせる機会づくりを支援する。

遊びを通じた運動の機会づくり

- 参加費なし、申込不要、出入り自由。なわとび、スポーツ輪投げ、卓球、バドミントンなどの用具を準備し、参加者がそれらを使って自由に遊びながら体を動かせる機会を、その地域の住民の方々と共につくる。どこでも、誰でも、思わずからだを動かしたくなるまちづくりを推進。

身近な公共空間を活用

- プロジェクトを実施したい個人・組織等を募り、その方々が住んでいる、あるいは働いている地域の身近な道路や緑道、公開空地、公共施設の広場などを利用してイベントを実施。身近な場所で、ウォーキング以外にも気軽に体を動かすことのできる機会をつくる。
- 行政のバックアップ・支援を受けるとともに、地元の町会等に賛同を得ることで、規制当局等との調整をスムーズに進めている。また、実施場所の特に近隣の住宅等にも事前に訪問したり、趣旨文書等を投函するなどして周知を図り、理解を得るよう努めている。

取組効果

- 参加者からは「わが子が、これほど帰りがたがらないで遊ぶことはめずらしい」、「ボッチャをはじめてやったけど、楽しかった」、「こうして施設を有効活用できるのはいい」、「この地域にもこれだけ子どもがいることに気づいた」、「もっと定期的に実施できるといい」などの声が上がっている。

今後の展開、取組方針

- 引き続き、実施を希望する組織の支援を広げるとともに、実施者同士が情報やノウハウを交換できる相互互助のネットワークづくりを進める。
- ノウハウのオープンソース化とともに、広く社会で認知されることを勧め、自治体が制度としてこうした取り組みの支援を担うことができるようにしていく。